

令和5年度 第7回 政策決定会議 会議録③

-
- ◆開催日時：令和5年11月29日（水） 13：32～14：00
 - ◆開催場所：市長公室
 - ◆出席委員：永野市長、堤副市長、波積副市長、大下教育長
 - ◆説明者：牟田生涯学習部長、田中郷土文化課長、山岡文化財担当長
-

◆審議事項

「岸和田城庭園（八陣の庭）整備計画」について・・・・・・・・生涯学習部郷土文化課⇒承認

◆審議概要

◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて、本件原案のとおり承認された旨、報告。

◎報告後、質疑応答

〈堤副市長〉26日のイベントには市議会議員も含めたくさんの方に来ていただけて、評価も高く、非常に良いイベントのスタートになった。岸和田市はこれまで歴史と伝統を謳ってきたが、100年を経て、「文化創造ビジョン・岸和田」で“文化・芸術のまち 岸和田”を打ち出し、コシノ3姉妹や塩田千春さんなど世界的な著名人がいることも打ち出していくべきだと思っている。ただ、そういった人たちの作品は展覧会等でしか見られない。しかし、岸和田城と八陣の庭が一体となった現代アートは、恒常的にあり、いつでも誰でも見られるため、“文化・芸術のまち 岸和田”としてわかりやすく打ち出せる。岸和田城は市外ではほとんど知られていないが、この整備計画は、岸和田市の新しいまちづくりのトリガーとしての意味を持ち、知ってもらう良い機会になると期待している。26日のイベントは大阪府主催で、発信力も非常にあった。このような“文化・芸術のまち 岸和田”を売り出すチャンスはこれからも使ってもらいたい。良いものもPRしなければ評価されないので、外に向かってどんどん打ち出していくことが大事。論文の発表なども継続していただけるとありがたい。

将来、城周辺の整備計画の中核になると思っているので、周りも含めたまちづくりの核になる良いものに仕上げてもらいたい。

樹木の伐採について。市民への説明にあたっては、アートとしての考え方に合わせ、植物の影響により壁や石垣が割れて危険であることも具体的に伝え、理解を得られるようにすること。

〈波積副市長〉昔城があった場所に城があることは、非常に良い観光資源。多くの都道府県では城があった場所に既に城がないところが多い。一方、観光客は昔に比べ目が肥えてきている。観光客はオリジナル志向があり、気にするのがオリジナルのままかどうか。城や、古墳等は、木が生えていない状態がオリジナルであることが多い。そのため、今回オリジナルに近い形に変えることは、観光客の目線にもあったオリジナル志向で素晴らしく、観光客に対する価値があることもぜひPRしてもらいたい。言ってみれば、当

初の理想の姿が維持されているというコンセプト、オリジナル志向というコンセプト、観光客にとっても価値があるというコンセプトがあるということ。さらに、四季のイベントを全て城と絡めて展開していきたい。岸和田市の観光価値を上げるための計画としてとても大事なので、しっかり取り組まれたい。併せていうと、次の100年構想としてはオリジナルの城の復活が重要。すぐにできないことはわかっているが、次の100年構想で、観光客から良いと思ってもらえる本当のオリジナルの城の復活をぜひめざしていただきたい。

- 〈教育長〉白砂だけでなく樹木の剪定、耐震補強や園路整備についても対外的に説明できるよう、資料を精査すること。
- 〈市長〉数年前に石の補修に予算をつけたが、それが今や岸和田モデルとなっているのは良い。
- 〈文化財担当長〉岸和田市で開発した補修方法で、一乗谷朝倉氏遺跡からも見学に来たし、名古屋城の大天守の石垣補修にも採用される予定。
- 〈市長〉例えば石を補修し、補修した石を見てもらい続けることは一義的なものだが、今後は、補修がどのように行われたか、補修に使われた技術なども展示していったほうがいい。昨年修理した仏像についても、修理前後の仏像の様子や修理作業そのものの写真展示等を行っているが、全てのもをそのスタイルにし、綺麗になったものを展示しつつ、その展示に至る補修等の努力が見られる展示があれば深みが出て良いのではないかと思う。岸和田城がああ場所に存在したのは事実だが、あの形の城ではなかったかもしれない。また、今となっては重森三玲が近代に造った芸術として残していくことになっている。その辺りの議論は面白く、それを展示することでリアルになる。後世に造った復興天守となるとレプリカの域を出ないが、レプリカとして存在している岸和田城を取り巻く状況などを展示するとリアルな物になる。例えば今後木を切っていくときも、最後まで反対され切れなかった木があればその蘊蓄を展示したらいいし、そういった物語を通じて人々は「城には木がないことが普通なのだ」という知識を得て、理解が深まる。観光や歴史、文化、人の想いがうまく展示されていくと思うので、試みてほしい。
- 白砂はどこから調達するのか。
- 〈文化財担当長〉もとは京都の白川砂を使っていたが、今は入手禁止になっている。ただ、今年から京都市が河川浚渫で出たものを販売しているという話がある。しかしそれが継続して入手できるかどうかはわからない。
- 〈市長〉その話も面白い。岸和田市としてはずっと白川砂を使っていたが、入手できなくなった、ところがこういった事情で入手できた、それがこの砂だと見に行ったら、それはただの砂ではない。ぜひ京都市と話をしてもらいたい。
- いろいろな角度の展示で人々を楽しませてほしい。
- 〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり承認してほしいか。

【異議なし】

⇒本件を原案のとおり承認する。

令和5年 11 月 14 日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 生涯学習部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	「岸和田城庭園(八陣の庭)整備計画」について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	平成 30 年度に策定した「岸和田城庭園(八陣の庭)保存活用計画」に基づき、岸和田城庭園(八陣の庭)が有する価値を明確にし、岸和田城と共に後世へ継承するための整備、活用の基本的な方針を示すため整備計画を策定した。
説明者	郷土文化課長 田中 文化財担当長 山岡
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

別紙

付議会議	令和5年度 第7回会議
付議事項	「岸和田城庭園(八陣の庭)整備計画」について

★取組の目的

対象	行政 市民 施設利用者
どのような状態を目指す	名勝の価値を後世へ継承できている。 歴史、文化を後世へ伝え、郷土愛への愛着をはぐくむ。

★総合計画上の位置付け

1070201	基本目標	岸和田の次世代を育むまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	郷土の歴史や文化が引き継がれている
	個別目標の方向性	② 岸和田の歴史や文化の保存・活用を進める
	行政の役割	岸和田の歴史や文化財を保存・活用する

★現状と課題

八陣の庭は作庭後70年が経過し、構成要素が経年劣化していること、八陣の庭の周囲の植栽が成長し、八陣の庭が有する価値を損ねていること等から、早急に全体的な整備等を検討する必要性が生じてきた。また、八陣の庭の整備にあたっては、八陣の庭が所在する府史跡岸和田城跡内の諸建築物や千亀利公園と調和のとれた整備を検討していく必要があり、庁内関係部課との連携を再検討する必要があることから、先に策定した保存活用計画に続き、八陣の庭をとりまく諸環境の整備を総合的に検討する「岸和田城庭園(八陣の庭)整備計画」を今回、策定するものである。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
文化財保護事業 (整備計画作成業務委託)	3,256	4,028						
文化財保護事業 (整備計画刊行)			449					
文化財保護事業 (白砂の追加・上段)								300
財源内訳	国費	1,628	2,014					
	府費							
	起債							
	一般財源	1,628	2,014	449				300
	その他							
事業費	計			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
			300	0	0	0	0	300

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
有	無					

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R3年度	R4年度	R5年度	目標値				
					R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
①									
②									

※事業費及び人員を確約するものではない。